

# わいわいくらぶ



社長のひとりごと…

当誌『わいわいくらぶ』は、当社の大切なお客様のために、わたしたち藤本工務店のスタッフがお伝えさせていただきますコミュニティー誌です。

この度の東北地方太平洋沖地震で、被災された皆様には謹んでお見舞い申し上げます。事態の改善と、被災された方が一刻も早くお元気になられます様、心よりお祈り申し上げます。

地震発生の直後、慌ててテレビを見ると、そこに映る被災地の状況はまるで映画のワンシーンのような信じられない光景であった。さらに、日を追う毎に明らかになる悲惨な現実には言葉を失ってしまう。

また、新聞の一面に掲載された一枚の写真が印象的であった。それは土葬された遺体の前で、「土葬する事をお許し下さい。」と敬礼する自衛隊員の写真であった。

被災地の復興は長期に渡るとは思いますが、私達も及ばずながら長期に渡り支援出来る事を真剣に考えていこうと思っています。

## 『風呂場の畳』



話は変わりますが、先日、大分に出張した時の事。九州地方には度々訪れるが、思い返せば二十歳代の頃、長崎県佐世保市に住んでいたことがあり、大きなソテツの木を見ると、「九州に来たなあ〜」と、鼻の奥をくすぐるような何とも言えない懐かしさを感じる。また、この地方の特急電車は、内装が豪華で肘掛付のゆったりとしたシートで、床はすべてウッドデッキ、至る所に木が使われている。私達の家づくりと似ていて、自然素材が造り出す癒しと安らぎの空間である。車窓から街並みを見るのが楽しみの一つだが、ボーと眺めていても、つい無意識に家を見てしまっている。

家そのものの造りは福井県の家とさほど変わり無いが、一番うらやましいのは”雪止め”が不要な事。この事を旅先の知人に言ったら笑われてしまったが、雪対策が必要な地域で家を建てる私達にとってはかなり重要なこと。雪が降る為に屋根形状や建物の配置に制限を受るので、デザイン性ばかりを追い求められない。また雪にまつわるトラブルに巻き込まれる事もしばしば…。この話に、「所変われば色々な悩みがあるものだ」と、知人はえらく納得していた。

さて仕事も一段落し、かねてから楽しみにしていた別府温泉での宿泊である。佐世保市の近くには、嬉野温泉や武雄温泉など有名な温泉がある。また長崎の小浜温泉などにはよく通ったものだ。ただし別府温泉は今回が初めてである。食事もそこそこに、今日一番の楽しみである温泉へ向かい、意気揚々と戸を開けたら…。「ギョ!!!」何と洗い場に畳が敷いてあるではないか！湯船に浸かるにはその畳の上を歩かねばならず、しばらくためらっていたが、勇気をだして一歩を踏み出した。お湯をたっぷり含んだ畳の感触は、”ぶわ〜”というか、”ぶよ〜”というか、何とも表現しがたいが、違和感たっぷり。なんせ、和室にあるあの”畳”なんですから。ましてや、建築人の私にとって、風呂の洗い場に畳を敷くなど考えも及ばず、どう解釈していいものか…。とうとう最後まで畳の上でお湯を掛ける事は出来なかった。

仕事の合間のくつろぎにと、海の見えるホテルを予約してくれた知人には申し訳ないが、あの畳が気になって気になって…。

ではまた、来月もお会いしましょう。  
今回も最後まで読んでいただき……、

あっぱれ  
ございました!!

